



スカウティング茨城



ボーイスカウト茨城県連盟
広報専門委員会 編集発行

<http://www.d2.dion.ne.jp/~bs18raki/>

21世紀おめでとう!!

新世紀突入&県連50周年記念年出発号



みなさん、あけましておめでとうございます。

遂に21世紀がやってきました。このようなチャンスに生まれたことを感謝するとともに、今まで培ってきたいろいろなことを礎に、これからの人生、社会、地球環境等についてしっかりと考え、それをひとつひとつ実践して成果を上げていきたいものですね。創始者であるベーデン・パウエルは、スカウティングの教育の在り方について一言でこう言っています「Learning by Doing(実行によって学ぶ)」そしてその方法は「Play The Game(スカウトたちにとって楽しいゲームである)」と。

さて、これまでボーイスカウトの世界機構や日本連盟では「21世紀を担う青少年の育成のため」に向けたさまざまな取り組みをしてきました。第34回世界スカウト会議(1966年)のテーマ「Looking Wider~視野をより広く」は、21世紀を目前にしてスカウト運動で直面する数々の問題点に対応していくために、この運動に携わるすべての成人が「誰のためのスカウティングか?」「何のためのスカウティングか?」を真剣に考え、改革を推進することを再確認したものです。

スカウト運動は、青少年の、青少年による、青少年のための運動であるはずですが、現在世界のスカウト運動は、本当の意味で青少年が主体となる運動になっているのでしょうか? 青少年がこの運動の意志決定に関わっているのでしょうか? 青少年に興味のあるプログラムが提供されているのでしょうか? この運動に携わるすべての成人が、この運動にどの様に関わるべきか、成人をどのように活用し管理するべきか「スカウティングにおける成人(Adults in Scouting)」を根本的に見直そうという、スカウト運動の生き残りをかけた提案が世界スカウト機構の教育グループ委員

長ベルテイル・トゥニエ氏からなされたのは今から11年前のことでした。それは……各階層組織に広がった大組織病と官僚主義を廃し、長い歴史の間に出来上がった悪い習慣を無くし、一般社会から若くて有能で意欲的な成人の人材が適材適所に活用でき、常に組織の活性化を進めなければ、今後ともスカウト運動は衰退し続け、もはやスカウト運動に21世紀はない……との警告でした。

それを受けて今、日本連盟から順に組織改革・機構改革が行われています。これからは県連盟、地区、団組織への改革が行われていきます。がしかし、教育は大人から子供へという既成概念、また日本の土壌にそぐわないという抵抗感や昔ながらの価値観の台頭、痛みを伴うことへのとまどいや反発等

からなかなか進んでいないのが現状ではないでしょうか?

折しも、核家族化、少子化による子どもへの過保護や過干渉の傾向が顕著となった昨今、社会においても様々な問題提起がなされています。それに対し21世紀を担う青少年の育成に向けて「自分で判断し、実行し、そして責任を持つ人間として成長する」ことを期待して、ゆとりの中で「生き

る力を育む」ことが重要であるとして、教育界にとどまらず、広い取り組みがなされています。その基調をなすのが「子ども最優先」の考えです。

21世紀になった今、青少年の育成に関わる者として「子ども最優先」の視点の中で、「青少年の、青少年による、青少年のための運動であるはずのスカウト運動」において「子どもの参画」をどのように受け止め、考えていくのかを私たち成人指導者1人ひとりが真剣にかつ前向きに受け止め、それを実現できる組織作りを青少年と共に私たち自らが作り上げていくことが早急に求められているのです。



平成12年度茨城県連盟理事会メンバーの皆さん

